



2

【ひろばの風】

教育システムの構築
— SCUは何をなすべきか—
聖カタリナ大学 副学長 玉井 建三



3

【Campus News】

剣道部が
愛媛国体の強化拠点大学に指定
国際交流協定の締結
愛媛FCアカデミーとの協力提携調印式
学内福祉就職相談会

4

【Campus News】

オープンキャンパス

松山まつり「野球拳おどり」で
テレビ愛媛賞を受賞

ボランティアウィーク

山口国体の愛媛県代表(ゴルフ)に選出



5

【ESSAY】

研究室の窓から
人間健康福祉学部 長尾 由希子



カタリナ ひろば

Vol.24 No.1
2011.11

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
www.catherine.ac.jp



6

【ゼミナールインタビュー】

人間健康福祉学部
大西 史晃ゼミ



6

【お知らせ】

サルーテの施設使用について
(学生・教職員)

7

【ようこそ就職課へ】

新卒業生激励訪問

就職課長 廣嶋 守

【クラブ紹介】

愛媛マラソン走ろう愛好会

部長 人間健康福祉学部 2年 渡辺 満さん



8

【教員著書紹介】

『やさしいピアノ&アンサンブル
曲集』CD付
日野幸子(聖カタリナ大学短期大学部 准教授) 著

『やわらかアカデミズム・(わかる)
シリーズ よくわかる福祉財政』
山本隆・山本恵子・岩瀬賢次(聖カタリナ大学 講師)・正野良幸・八木橋慶一 編



教育システムの構築

— SCUは何をなすべきか—



聖カタリナ大学 副学長 玉井 建三

2011年3月11日の東日本大震災がもたらした被害は、わが国のみならず全世界に影響を及ぼした地球的危機ではないかと懸念されています。この大震災で、被災者の連帯や家族の絆、その被災者を支えようとするボランティアの方々の言動をみると、日本人が永くもってきた、忘れかけの伝統的「思いやりの精神」をあらためて呼び戻した感があります。これこそが日本人のもつ、伝統の文化風土ではないでしょうか。

この危機を乗り越えて、21世紀の未来を構築するために、本学(SCU)は何をなすべきか。SCUは今こそ、建学の精神に基づいた、個性ある教育研究活動を展開し、地域に愛され社会と連携するための新しいコンセプトが求められているのです。

「思いやりの精神」は本学の教育が成し遂げてきた貴重な財産であり、新しく掲げたスクール・モットー「Charity for Your Neighbours」の精神でもあります。この精神は、自立過程の若者に対する社会人としての素養と専門性を備えた活力あふれる人材を育成することに他ありません。このためには教育に携わるものとして、本学の教育理念に基づいた更なる「教育力」「研究力」「社会貢献力」の向上に努め、堅実で有能な人材を社会へ送り出すことが我々教職員の責務なのです。

ところで、私立大学連盟は、これからの「日本の持続的発展を可能にするための高等教育政策はどうあるべきか」を考え、その中で、次世代の社会を構築する中核的人材を育成し、多様で重層的な大学教育を担っていかねばならない」ことを説き、「私立大学21世紀委員会」を平成22年に設置し、このほどその結果が報告(平成23年6月)されました。そこには「教育立国」を再構築するための極めて重要な提言がなされています。なかでも本学の建学の精神や教育の理念と深く関わる提言を、いくつか紹介してみたいと思います。

大学への扉は、新時代を拓く原動力として、一定の学力を有し、志ある者はだれでも、いつでもアクセスすることのできる環境整備を図ることが不可欠であることを提言しています。また、少子高齢化社会の急速な進展に対処するためには、高等教育が若い世代を育成するとともに、中高年の世代にも必要に応じて学べるシステムを構築し、質と量をさらに高める必

要があることも提言しています。

また建学の精神に基づくアドミッション・カリキュラム・ディプロマの3つのポリシーに則した教育活動と、その不断の点検・評価を行い特色ある教育を推進し、日本の将来を担う人材の育成を果たすことが望まれています。

更にはアジア各国の大学で短期に学びあう仕組みの構築が喫緊の課題として、アジア・環太平洋諸国との交流を推進すること。「大学＝18歳」という大学のイメージを打破し、生涯学習・社会連携教育への転換を図ることも述べられています。

本学では開学以来、高度な知識基盤を支えるため多様性をもった教育を実践し、健康福祉分野を柱として地域に貢献できる人材の育成を行ってまいりました。また知的コミュニティの創造と地域発展の核としての役割や、グローバリゼーションに対応するための活力ある教育を実践してまいりました。今後もこの役割を遂行しながら、新たな日本の産業社会と健康福祉社会づくりに適応できる人材の育成と年齢に関わらず志と必要に応じて学べる学習環境を整備してまいります。

この使命を果たすために、大学と短期大学部、それに聖カタリナ女子高等学校が連携しながら、学園全体で強力に推進する体制がすでに構築できております。それが平成20年11月に設けられた「高大連携計画委員会」です。この発足によって、大学の喫緊の課題は、学園全体の課題や将来像と連動させながら検討できる体制に整ったわけです。社会において自らの課題を探究する能力やコミュニケーション能力、リーダーシップ能力を身につけた人材を育成しようとする大学の新たな計画は、その委員会で提案されて「人間社会学科」が本年4月に新設されたのです。また、更なる教育の質向上と教育システムの構築に向けて大学院の設置も検討しております。

高等教育機関としてのSCUは、地域に信頼され愛される社会連携教育、海外大学との連携と留学生の受け入れ、幅広い世代の人材の育成などに併せ少人数教育などの教育システムの構築により、社会が抱えるさまざまな課題に先見性と先進性をもって対処できる人材を育成してまいります。

剣道部が愛媛国体の運動部活動強化・育成指定校（強化拠点大学）に指定

聖カタリナ大学剣道部が、平成29年に開催される愛媛国体の運動部活動強化・育成指定校（強化拠点大学）に指定されました。

これは、愛媛国体開催時に出場する選手の、積極的かつ効果的な育成強化を図るとともに「愛媛県手づくり選手の育成強化」の実現と愛媛県スポーツの飛躍的な発展を期することを目的としています。

第38回中四国女子学生剣道優勝大会において、第三位に入賞し、13年連続全日本女子学生剣道優勝大会へ出場することも決定しました。



国際交流協定の締結

聖カタリナ大学は、モザンビーク聖トマス大学（モザンビーク共和国）と韓信大学校（韓国）の2大学と国際交流協定を締結しました。

この相互協力協定は、大学間の文化的交流、学術進歩、両国民の友情の絆を強め、教育の国際化を目的とするものです。

今後は、学生の交流、教員及び研究者の交流について推進していきます。



愛媛FCアカデミーとの社会連携に関する協力提携調印式

本学と愛媛FCアカデミーは、互いに協力して教育・スポーツ・文化等幅広い分野において交流を行うことを目的に、活動協力提携書の調印を6月8日（水）に行いました。

この協力提携を結ぶことで、行われる主な活動内容は以下のとおりです。

- ・愛媛FCアカデミーへのインターンシップ
- ・愛媛FCアカデミーの選手や指導者の聖カタリナ大学の施設の利用
- ・地域スポーツの振興と文化の発展に関わる事業への連携協力



学内福祉就職相談会

7月8日（水）に、大学4年生と短期大学部2年生を対象とする平成23年度学内福祉就職相談会を開催しました。今年度は愛媛県内37、県外3（兵庫、岡山、広島）の合わせて40の事業所に参加していただきました。

この相談会は、福祉専門職志望の学生に、福祉事業所の採用担当者と直接話す機会を設け、今後の就職活動に役立ててもらうことを目的として毎年開催しています。



オープンキャンパス

2011年度のオープンキャンパスを6月18日(土)、7月16日(土)、8月7日(日)、9月18日(日)に開催しました。全日程とも、たいへん多くの高校生および保護者の方々にご来場いただき、誠にありがとうございました。

また、開催にあたっては、今年度もスタッフとして在学生からの協力があり、若者の交流の場ともなる本学らしいオープンキャンパスになりました。

【主な内容】

パイプオルガン演奏

大学・短大の学科別説明

学食体験

サークル紹介

模擬授業、模擬面接、個別相談等



松山まつり

「野球拳おどり」でテレビ愛媛賞を受賞

8月13日(土)の松山まつり「野球拳おどり」では、聖カタリナ大学連がこのイベントの『取り』を務め、52名が笑顔で楽しく、元気に、はつらつと踊りきりました。

汗びっしょりの学生の顔には、みんなで一体となってやりきった充実感がありました。

今回、聖カタリナ大学連は、松山まつり「野球拳おどり」で、優秀賞「テレビ愛媛賞」を受賞しました。

大学の『のぼり』を持って一緒に歩いてくれた学生や、途中の水分補給のために台車を押して歩いてくれた学生、沿道から応援してくれた学生等、多くのご協力を頂きました。

皆様のご声援、ありがとうございました。



ボランティアウィーク

12月10日(土) 10:00～16:00、本学の聖カタリナ学生ボランティアセンターによるチャリティー活動「ボランティアウィーク」の公開イベントを行います。

ボランティアウィーク【12月5日(月)～10日(土)】とは、学生ボランティアセンターなど、たくさんの学生が協力して募金活動を行う恒例のチャリティーイベントです。ボランティアウィークでの収益金は、国内外の福祉団体等に募金します。

イベント当日は、ミャンマーやスリランカで、農業技術の普及・向上や環境保護活動を行い、「循環型社会の構築」を目指している国際NGO「地球市民の会」の事務局長をお招きし、人づくりを中心とした草の根の国際協力の現状と今後の展望、課題についてお話を伺う予定になっております。また、福祉団体からの美味しいお菓子や工芸品の販売、展示会やフリーマーケット、ぼけっとちびっこダンス、影絵などの多彩な催しを予定しています。

子どもからお年寄りまで、幅広く楽しんでいただけるイベントをご用意しておりますのでお気軽にご参加ください。

入場無料。



山口国体の愛媛県代表(ゴルフ)に選出

高橋美帆さん(大学1年)が山口県で行われた第66回国民体育大会におけるゴルフ女子の部で愛媛県代表に選出されました。



研究室の窓から♪ (BGMはあの曲で)

人間健康福祉学部 長尾 由希子

こんにちは。4月から聖カタリナ大学に講師として着任いたしました。人間社会学科の長尾由希子と申します。この冊子(『カタリナひろば』)は、保護者のみなさまや愛媛県内の高等学校、全国のカトリック系大学・短大などへ配布されるとうかがいました。恐れ多いことです。私は着任してまだ日も浅く、もとより大学教員としては若輩者、経験不足の身です。そこで今回は、日常な話題で恐縮ですが、私の研究室の窓から見える風景のお話をさせていただきますと思います。

私は、研究室の窓から見える北条、風早の風景がとても好きです。他の人にとってはありふれた景色に見えるとは思いますが、とても好きなのです。まず、空が広い。そして窓を開けると、海と山から遮るものなく、心地よい風が入ってきます。この空気がとても大切に、「風景」というのはただの景色ではなく、風と主観がセットになっていると思うのです。

私の研究室は北向きですが、白壁の3分の2ほどもある大きな窓のおかげで、とても明るく開放感があります。窓の外には、電線のない空と恵良山や腰折山などの山並みが広がっています。身を乗り出すと、左手奥には大浦方面の海も見え、大型船の出入りを臨むことができます。朝の風を入れ、空や山海を眺めると、とても晴れやかな気持ちになります。

目の前に田畑、恵良山と腰折山などの山並みが見えます。右手に写るのが体育館、サルーテです。写真には写っていませんが、左手には予讃線越しに大浦方面の海を眺めることができ、眼下には附属幼稚園があります。なかなかよい瞬間を上手く撮ることができず、素晴らしいさをお伝えできないのが残念です。



『日常』

窓の額縁のおかげで、四季折々、時々刻々と変わる自然の風景画を楽しむことができます。とてもきれいな瞬間を目にしたときは、気持ちが高揚します。冬には雪景色も楽しめそうで、今から心待ちにしています。

『風早の大雨』



いつもは眺めのいい窓も、この日は大雨で外が一切見えませんでした。写真はあまり撮らないのですが、思わず撮りました。

風早と言うだけあって、北条は風雨が強い地域です。この日の大雨で靴擦れを悪化させ、やむを得ず一時的にサンダル出勤をしていました。骨折(自転車で横断歩道を渡ろうとして失敗しました)によるTシャツ通勤との合わせ技で、スーツが基本の本学教職員の中、一人超クールビズでした。

ちなみに骨折後のリハビリは途中からは病院ではなく、本学の大西先生にお世話になりました。短期間で快適な状況になり、さすがプロだと感服しました。お忙しい中、理論だけではなく現場も踏まえておかなければいけないからと、嫌な顔ひとつせず施術してくださいました。また、A先生には肩が凝らない三角巾の結び方を教えていただき、大変過ごしやすくなりました。T先生には食事をする際の補助シートをいただきました。高木先生には介護や骨折のご経験をうかがいました。

自分自身の骨折を機に、医療・福祉・健康の重要性を改めて実感しました。また、あたたかい環境に大変助けられました。医療・福祉・健康に関心のある高校生みなさんにも、本学のこの環境を味わっていただければと思います。

私のいる棟は、廊下を中央に挟み、研究室が北向きと南向きに配置されています。着任前に学科メンバーで打ち合わせをした際、同期で先輩のお二方(徳田先生、丹藤先生)は、本が日に焼けないという理由で北側を選んでおいででした。私は借景などと言って、窓から見える風景を基準にして選びました。研究者としてはあまり本質的な観点ではないかもしれませんが、でも、どうしても好みの風景が見える研究室がよかったのです。

別のところに住んでいたとき、私の気に入っているとある散歩コースがありました。空気がきれいで静謐な、緑の多いところでした。何度か友人を連れていったことがあります。ある友人は、「さびれ具合がひどい」と表現しました。別の友人は、私と同じように心地よさを味わっていました。どちらも大切な友人なのですが、人によって好ましいと思うことは違うのです。

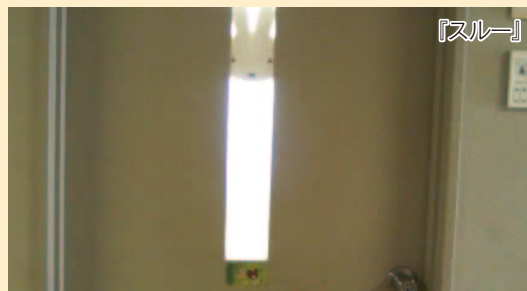
私はどちらかと言えば優柔不断な性格です。たいていの事柄について、それほど明確な意見や、是が非でも押し通したい主張があまりありません。他の人に否定されると、すぐに自分の感じ方に自信がなくなります(書いていてダメな気がしてきました…)。しかし、たまには迷いなく好きだと言えることもあるのです。

若干大袈裟に言いましたが、「だって好きなんだもん」ということです。あるいはタモリさんのな楽しみ方と言い換えてもいいかと思います。研究室の窓から見える風景と散歩コース、これはどちらも他の人からすれば、景色そのものも内容も、取るに足りないことかと思えます。でも、私はとても好ましく思うものなのです。

特に若いうちは、自分の好みが他の人と同じではないと、不安で修正したくなることが多いと思います。他の人と同じことが正しいことのように思われます。

でも、当たり前のことですが、何が好ましいかは人によって異なります。さらに同じ人でも、年齢を重ねるにつれて好みは変化します。自分の好みを意識して、些細なことも楽しむということが、自分と向き合うことや、日々の楽しさにつながっていくように思います。

そういう、「私はこれが好き」と言えるものが1つでも見つけられると、よりしあわせな気がします。役に立つ…のではなくて、誰かに褒めてもらえる…のでもなくて、自分がよりしあわせな気持ちになることができると思います。学生みなさんにもそういうようなものを見つけてもらえたら、と思います。進路を始め、どのような選択場面でも、他の人の目ではなく、最後にはやはり、自分自身の心になさねなければなりません。



『スルー』

私の研究室のドアです。学生・教職員の誰にも一言も触れられたことがありません。年齢規範を逸脱しているからだと思われます。写真からもわかるように、北向きでもとても明るい部屋です。



ゼミのテーマを教えてください。

トレーニング、キッズスポーツ

「Sports」という言葉は仕事から離れる、気分転換すること、楽しい感情を発散させるものを意味するラテン語のdeportare（デ・ポルターレ＝生活から離れる）を語源に持ちます。現代におけるスポーツは多種多様なルールの下、老若男女を問わず、個人のレベルと要求にあったカテゴリーの中で行われ、生活に豊かさを加えてくれるものとして広く認識されています。私のゼミでは特に子どもたちがスポーツから学ぶものに着目し、「仲間」や「ルール」といった心の成長を促すもの、そしてゴールデン・エイジ（子どもの肉体的成長過程の一定期間に存在する身体の器用さが最も伸びる期間）に代表される成長過程の特徴といったものを理解し、指導者として必要な応用力を身につける方法を研究しています。

ゼミの特徴を教えてください。

実践学習です。机の上でテキストを開いて考え込むだけでは物事に対する純粋な気持ちを感じることはできません。実践してみて初めて考えていたことの善し悪しがわかり、また一緒に活動する仲間の気持ちもわかるものです。学生たちが将来指導者となった時、椅子に座って指図しかしない指導者になってほしくありません。指導者として自らが楽しみながら実践していく中で、受講者とともに成長していく姿勢を常に持ち続けてほしいと思います。アイデアや理論を現場で活用できる指導者となるべく、実践教育を行っております。

ゼミのスタイルを教えてください。

トレーニング講習会やキッズスポーツ大会など様々なイベントにスタッフとして参加する機会を作っています。実際に指導者として、または受講生として参加し、現場の雰囲気に触れてもらおうと思っています。

大西 史晃 ゼミは **こんなゼミ**

実際に体を動かし、トレーニングによってどの筋肉が鍛えられどのような効果があるか学んだり、キッズスポーツやトライアスロンなどのボランティアに行ったりなど活動的なゼミです！

健康福祉マネジメント学科 3年 安川 悠哉

お知らせ

サルーテの施設使用について（学生・教職員）

聖カタリナ大学では、健康スポーツマネジメント専攻の開設と同時に誕生したヘルスプロモーションセンター「サルーテ」を、今年度より学内の学生及び教職員に開放致しました。開放しているのは、月曜日・水曜日・金曜日の週に3日間で、時間は16:30～20:00です。また、夏休みなどの長期休暇期間においては、平日を中心に更に多くの開放日と開放時間を設定して運営しています。

現在は、ウェイトトレーニングや有酸素運動が実施できるトレーニングスタジオとストレッチやエアロビクスなどが実施可能なフィットネススタジオの2つのスタジオを利用場所として開放しています。目的に合わせて日々、学生や教職員が利用し、これまでにはなかった、楽しいコミュニケーションの場面も多く見かけるようになりました。

今後は、一般開放も考え、より多くの方の健康増進やトレーニング施設として発展させていきたいと考えています。



ようこそ就職課へ

新卒業生激励訪問

毎年6月から8月にかけて新卒業生の追っかけ訪問をしています。目的は新卒業生が元気に働いているかを確認するためと採用頂いた企業や施設に採用のお礼と卒業生の教育指導、在学生の今後の採用に向けてのお願いです。きっかけは私が現職に就いた最初の年に、ある歯科医院にお礼訪問した時のことです。聞けば就職したはずの彼女はたった3日で早期離職した、という話です。辛抱強さがないと云うよりは職業選択の時点で間違っていたのではないかと考えました。そのことがあってから毎年できるだけ多くの施設や企業を回り、新卒業生に少しでも元気を与えられ、就業への力が湧く様に声かけを続けています。一般企業の場合、働いている現場が本社以外のところであったりしてなかなか本人に会えないのが残念ですが、施設等の場合は本部と現場が近く、しばらく待つことはあるもののたいていの場合、会うことができます。在学中はあまり話をしたことのない卒業生であってもほとんどの卒業生が笑顔で懐かしそうに話にこたえてくれます。

今年の7月、男子卒業生が就職をしている南予の施設を訪問したとき、ちょうど入浴介護中とのことです。案内された浴室の入り口でしばらく待ちましたが、汗びっしょりになっ

てニコニコと笑顔で出てきました。館内の施設の案内がてら日頃の仕事の様子、生活の様子を話してくれました。上司の方の話でも非常に頑張っている様子であり、しばらく3人で話すことができましたが職場の環境も良く、本人にとって本当によいところに就職できたものだと感謝しました。このようなときが一番嬉しいときであり、学生の就職支援という仕事をしていて良かったと思う瞬間です。ただ困ることもあります。ある施設を訪問したときに食事の介助中でしたが事務長からは是非会っていつてやってくれとの要請です。食事を運搬中の彼女に廊下で会い、話しかけると突然ぼろぼろと涙をこぼし泣かれてしまいました。張り詰めた気持ちが私の声かけて溶けてしまったのでしょうか、しかし、しばらく話をしていると落ち着いて日頃の仕事を話してくれました。最近では早期離職も以前の七・五・三現象が少し早まってきているようで、就職後の仕事の悩みや愚痴があるときはいつでも就職課に、しかもできるだけ辞めた後ではなく辞める前に相談に来るように伝えています。

今年は例年になく学部も短大も早期離職者が増加気味です。就職課としてはともすれば内定先確保重視に気持ちが向きがちですが、内定後の就職決定の際にもアドバイスをするべきではないかと思っています。例え就職内定率が高くても就職後の早期離職率が高いのでは就職支援がきちんとできているとはいえないのではないかと思います。本当に学生が自分で心から希望して仕事に就き、長続きができる就職先が見つかるようもっともっと関与していきたいと思っています。

就職課長 廣嶋 守

クラブ紹介 愛媛マラソン走ろう愛好会

愛媛マラソン走ろう愛好会です。私たち愛媛マラソン走ろう愛好会は、その名の通り愛媛マラソンを完走することを目標としています。その他にジョギング、ウォーキングによる体力の維持、向上を目的としています。また、愛媛マラソンだけでなく他のマラソンにも出場しようと

考えています。

活動内容は基本的に走

ることですが、愛媛マラソンコースで練習し、単に走るだけでなく高低差を考えて走り頭を使って無駄な体力を使わないように練習をしています。その他にも今年からサルーテが開放されたためウエイトトレーニングなどの練習もしています。

7月までの他のマラソン大会に出場していたのは、私だけでしたが、他の部員たちも10月に開催された今治シティマラソンに出場しました。

今年できたばかりなので愛媛マラソン走ろう愛好会で出場するフルマラソンは次の愛媛マラソンが最初となるわけですが、出場する人たちが完走できるようにしていきたいと思っています。

部長 人間健康福祉学部2年 渡辺 満



教員著書紹介



『やさしいピアノ&アンサンブル曲集』CD付

日野幸子（聖カタリナ大学短期大学部 准教授）著：三恵社 2010年

本書は、施設、保育所、幼稚園、小学校などで子供達の育成に携わることを目標とし、日々努力する学生の基礎音楽力向上の一助となることを願い制作したオリジナル曲集です。日本では明治以降、西洋音楽導入をもって西洋音楽理論を根底に据えた音楽教育がなされてまいりました。音楽は時代の流れとともに紆余曲折を経て、現代に至っては様々なジャンルの音楽が百花繚乱のごとくここかしこに流れ、もはや生活を取りまく環境の要素となっています。そういった時代の中で音楽を学習する時、いろいろな方法がありますが、本書はひとつのメロディーをジャンルの違ったアンサンブル・バリエーションにして、雰囲気の違いを楽しみながらコードやリズムに触れていく学習方法を紹介しているものです。

12曲のやさしいメロディーにピアノ伴奏スコア、アンサンブルスコアが付いています。12曲は例えばクラシック風、ポップス風、ラテン風、ジャズ風など、1曲につき3種類のジャンルでバリエーションに編曲されており、学習者はCDとのコラボレーションによって響きやリズムの特徴を感じ取ることができます。イベント用に活用でき、生活の中でも使える現代ならではの音楽ツールです。メロディーに歌詞を付けたり、コードを入れ替えて曲の変化を試してみられるのも良い勉強になります。本書が、音楽学習をささやかながらサポートできることを願っています。また学習成果などを出版物にされる時には、ご一報いただければうれしく思います。



『やわらかアカデミズム・(わかる)シリーズ よくわかる福祉財政』

山本隆・山本恵子・岩満賢次（聖カタリナ大学 講師）・正野良幸・八木橋慶一 編
：ミネルヴァ書房 2010年

本書は、福祉を学ぶ学生や現場の方々向けに、福祉に関する財政、いわゆるお金、についてまとめたものです。

なぜ、財政に着目するのかというと、財源を握っている者は必ず配分の権限も持っているためであり、このことが社会の民主主義のあり方を物語っているためです。特に福祉の領域は、障がいや有する方や所得の低い方、虐待を受けている方など、社会的にマイノリティな方が多く、このことは政治的にもマイノリティであるとも言えます。そのため、多数派に埋もれてしまわぬよう、マイノリティである方々にどのような形で、誰が財源を配分しているのか、十分に検討していかなければならない課題と言えます。

福祉の関係者はとても高い熱意を持って援助にあたっておりますが、彼らの活動を支えるためには、必ずこの財政の問題は付きまとってきます。これから福祉専門職を志す学生達にも、高い熱意と共に、財源を伴った議論ができる人材となって頂きたいと願っています。

学校法人 聖カタリナ学園

聖カタリナ大学



カタリナひろば vol.24 No.1

編集・発行

広報委員会

〒799-2496 松山市北条660番地

TEL (089) 993-0702 (代)

kouhou@catherine.ac.jp